問題2A−3　次の文章を読んで、後の問にこたえなさい。　解答と解説

小学生高学年の頃から、夏にイギリスのウィンブルドンで開催されるテニスの生中継を見るのが楽しみの一つだった。開催期間二週間のこの大会のためだけに準備される天然芝のテニスコートは、画面越しにでも凛とした佇まいのようなものを感じる。

大会の序盤はシード選手たちの初戦が放送される。たとえば前年チャンピオンの世界ランク一位と世界ランク百位の試合だ。さて、どちらが勝つのだろうか。

その質問に対する答えはテニスやテニス選手に詳しく無くても誰でもわかると思う。十中八九どころか百パーセントに近い確率で世界ランク一位が勝つのだ。ランク百位も試合開始直後は全力のプレーでケントウするかに見えるが、ピラミッドの頂上であり不動のランク一位の選手が華麗なプレーでランク百位を圧倒。そうした展開は実は観客も視聴者も多くの人が期待している通りの試合運びでもあると思う。

中学生くらいになった時だろうか。ふと思ったのは、百パーセントに近い確率でランク一位が勝つこの試合の意味はいったい何なんだろかということだ。ランク一位にしてみれば、本気の試合には程遠い準備運動のようなものだろうし、ランク百位は本気で勝とうと思ってやっているとは思うが、一時間半後にはほぼ負けが確定している試合。そんな試合の意義がどこにあるのだろうと、ちょっと不思議な気がしていた時期があった。

事実、テニスには年末に世界ランク上位八人しか出場できない大会がある。上位ランク同士の戦いだから実力伯仲だ。一方的な試合になることは少なく白熱した戦いが繰り広げられる。そうなると、やっぱりウィンブルドンの一回戦の意味がよくわからなかった。・ここまでテニスの話の具体例

そんな時、一つのニュースが伝わってきた。うちの中学校の一つ学年が上の生徒が、陸上の全国大会の走り高跳びで準優勝したというのだ。全国大会で準優勝。それはなんだから特別な響きに感じられた。しかもうちの中学校という、特に英才的な教育をしているわけでもないような中学校の生徒が、日本で二番目の成績を取るとは。・ここは中学生陸上全国大会のエピソード（具体例）

だが、落ち着いて考えてみるとなぜ凄いと感じるのか。全国大会だからか。ほとんど全国一に近いからなのか・・・考えはまとまらないようで、じわじわと見えてくるものがあった。全国大会の上位をすぐに凄いとわれわれが思うのは、ア地区大会から県大会、そして全国大会という上位に絞られていく構図を思い浮かべるということもあるし、もっと単純に日本という国の人口の規模から絞られて、たった数名の頂点というのが瞬時に感覚的にイメージできるからなのではないだろうか。逆に、近所の公園で友達二人が徒競走をして片方が勝っても、誰も凄いとは言わないだろう。・この段落で具体例を使って考察

つまり、頂点が凄いと思うのは［　イ　］が広いからなのである。陸上の大会もテニスのウィンブルドンも、その競技をやっている人がたくさんいるからこそ優勝が凄いのだ。そしてそれが無いと競技そのものが成立しない。競技人口が数十人しかいないスポーツは、そもそも大会など開催できないだろう。

現在、プロテニスの世界ランクにいる選手は千五百名以上。その下には千五百台のランクに入れない選手が沢山いて、さらにその下にはプロを目指している人、目指しているけどそろそろ諦めかけている人、などを含めれば、おそらく数万人、もしかしたら数十万人以上の人がいるのではないだろうか。だからランク百位というのは本当はかなりなエリート選手と言える。何しろ数十万人のうちの百位なのだから。

一位が試合ができるのは、対戦相手の百位が、その下には数えきれないほどの選手がいるから。その構図がその世界を支えている。それはおそらくどんな分野でもそうなのだろう。そのことに初めて目をやることができた中学二年生の夏だった。・この段落で結論となっている。

（威堰　杏「秀逸なゼクエンツ」より）

問一　A＿＿傍線部のカタカナの漢字と同じ漢字を選択肢から選びなさい。

ア　ケントウ

1　飛行機にトウジョウする。　搭乗
2　◎スペインのトウギュウシ　闘牛士
3　トウナンアジアの国々　東南
4　トウカンカクに並ぶ。　等間隔
5　廃品をトウキする。　投棄

健闘

問二　ア＿＿傍線部　を端的に言い表している表現を、十字以内で抜き出しなさい。

ピラミッドの頂上

問三　［　イ　］に入る言葉を二つ選びなさい。裾野が広い・底辺が広い　ほとんど同じように使われる。

1　俯瞰　2　有頂天　3　◎裾野（すその）　4　怠惰　5　◎底辺

問四　この文章で筆者の主張は次の選択肢のうちどれか。

1　◎私たちはトップの活躍に注目するが、トップだけが凄いのではなくやっている人が多いからこそ、その分野が成り立つという構図になっている。・裾野が広いピラミッド構造がその分野を支えているという、筆者の主張に該当する選択肢になっている。

2　テニスや陸上などの世界的に見ても競技人口の多いスポーツのトップは輝いて見えるが、競技人口の少ないスポーツはこれからの時代はさらに苦しくなる。・競技人口については述べられているが、筆者の主張ではない。

3　スポーツ競技が下位の選手たちに支えられて成り立っているように、他のいろいろな分野もそれを支えるスポンサーや運営ボランディアの人など、さまざまな要素で構成されている。・途中まではいいが、スポンサーや運営ボランティアは裾野が広い構造とは関係がなく、本文で述べられていない。

4　優勝や準優勝といった輝かしい成績だけが素晴らしいのではなく、下位の選手も同じ選手として同等の価値を持っているというのがスポーツの本質である。・本文の言う底辺が広いピラミッドの構造は、同等の価値ではないが、こうした一般論で正論のような選択肢に注意したい。

5　多くの下位選手たちからトップ選手まで幅広い人によって構成されていう構図は、あたかも食物連鎖のようになっていて生物の世界の法則のようなものである。・前半はいいが、後半の食物連鎖については本文で述べられていない。また、本文で述べられている裾野が広いピラミッドの構図は、具体例にあるようなテニス選手や陸上選手など、立場としては同じでありながら、実力の違いで上位に絞られていくという構図であり、食物連鎖の動植物の関係は立場がそもそも違うので、当てはまらない。